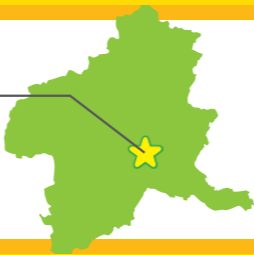


お茶の場もあり交流の深まる買い物支援 大利根マロニエ会

前橋市



買い物支援とふれあい・コミュニケーションをする地域交流の場を提供する。2つを組み合わせた新しい形の高齢者支援。



買い物前の交流を楽しみにしている人も多い



スーパーで一緒に商品を選ぶ

●活動内容

毎週水曜が活動日。マロニエ会のボランティア活動は一人暮らし高齢者の買い物支援が中心。利用者の参加費は100円。利用者は大利根公民館に10時に集まり、ボランティアが持参する自宅の庭の花々で飾り付けたテーブルで、30分ほどお茶とお菓子を食べながら会話を楽しむ。ここで出会って友達が増えたと喜んでいる人も。会話することでおしゃれに気を使ったり、近況を伝え合ったりと良い刺激が得られているようだ。

お茶の後、ボランティア車に乗り、町内のスーパーマーケットへ買い物に出かける。一人で買い物を済ませる利用者もいれば、ボランティアに手伝ってもらう人も。買い物が終わると、スーパー出入り口の休憩場所で、ボランティア持参のお茶で一息入れ、利用者を自宅まで送り荷物を運び入れ終了となる。その後、ボランティアメンバーは、公民館に戻り反省会を行う。問題があった場合は話し合い、次回から実践していく。

平成25年から赤城山や榛名山などへ紅葉狩りの小旅行を行い、好評を博した。また、春には公民館に隣接する公園で花見など、地域の交流サロンとしての役割が広がり、イベントを心待ちにする人も増えている。

●事業を始めたきっかけ

前橋市の南西部に位置する大利根町は、昭和41年に大型住宅団地として造成された。団地内にはショッピングセンターもありたいへん賑わっていたが、地域の高齢化とともに現在はほとんどが閉店してしまった。

そのため、車の運転ができずに買い物に困っている高齢者を助けたいという思いから、代表の田中興一さん夫妻が町内の元民生委員等に声をかけると、賛同するボランティアが20名ほど集まった。

前橋市内でも特に高齢者の多い地域のため、買い物支援だけではなく、みんなが集まれる憩いの場所を作りたいという考えから、公民館での「ふれあい・いきいきサロン」活動を軸とした、買い物支援を平成23年から始めた。

支援する側も、支援される側も高齢者のため、気が合うのも特長。ボランティアの中には70歳以上の方もいる。ボランティアに登録するのに、これといった制限はなく、どんな遠方の方でも構わない。

会の名称であるマロニエ(栃の木)は大利根町内の街路樹に由来する。



重たい荷物運びに大活躍のボランティア

●工夫している点・特長

運転や荷物運びは主に男性、お茶の用意や話し相手は主に女性が担当している。

利用者には、あらかじめ買い物リストを持ってきてもらい、店内の移動などが身体の負担にならないように、スムーズに買い物を終わらせる工夫をしている。

現在、マロニエ会のボランティア活動をする、前橋市の「介護予防活動ポイント」の対象に認められていて、特典が得られる。「心ばかりではあるけれど、ボランティアの方々にお礼ができることがうれしい」と田中さんは言う。



買い物後の報告会。より良いサービスにつなげている

「60代以上の人は時間に余裕がでてくる傾向があるため、マロニエ会のボランティアは70歳以上の方が多いです」。年齢を経ても、近所の人を支えようとしてくれる人が多い。「この先も長く続けていくことが大事」だと田中さんは語る。

今後の課題は、ボランティアの人数が限られているため、利用者数を増やすのが難しいこと。また、現在の利用者が、今後歩行困難になった時、マロニエ会の支援はどのような形が良いのか、ということだ。



〈やりがい・楽しみ〉

「利用者もボランティアも一人ひとりが協力的なので、ここまでトラブル無くこられたのだと思います。一人暮らしの高齢者が2週続けて姿を見せないと、心配になります。ご近所の方の安否確認という点でも貢献しているのではな

いでしょうか。自分も買い物支援が必要な年にもうすぐなりますが、こうしてボランティアでたくさんの方と接するのは楽しいし、生きがいになっています。話すことが大好きなので、できる限り長く続けていきたいです」と、ボランティアの女性。

基礎データ

☎027-252-8751

大利根マロニエ会

事業開始時期／

平成23年

主な活動／

お茶や会話をする場の提供、買い物の送迎・補助

人数・年齢／

ボランティアの人数
22名(ボランティアの
年齢平均 70代)
利用者の人数23名